▼東山あかね著「脳卒中サバイバル」ある日、突然、脳卒中は襲ってくる。救急搬送、手術、リハビリ…。いや応なく迫られる対応を、どうこなしていくか。

日本シャーロック・ホームズ・クラブを主宰する著者が、倒れた夫とともに経験した「待ったなし」の日々をつづった闘病日誌である。うつ病や味覚障害の発症など、脳卒中患者特有の病状も克明に記録した。

高齢者のリハビリをさまたげる医療制度の矛盾にも直面。「病院を移らないなら退院せよ」と迫られた著者は、これは、リハビリ難民どころか、リハビリ棄民ではないか」と怒りをあらわにする。

（新曜社・1890円）